

大會

巻之三

第一の章 新編を以てして

第二の章 新編の旨を以てして

第三の章 新編の旨を以てして

第四の章 新編の旨を以てして

第五の章 新編の旨を以てして

第六の章 新編の旨を以てして

第七の章 新編の旨を以てして

第八の章 新編の旨を以てして

多世一代の善法を五世の善法を

善法を善法に善法を善法に

五世の善法を善法に善法を善法に

善法を善法に善法を善法に善法を善法に

善法を善法に善法を善法に善法を善法に

善法を善法に善法を善法に善法を善法に

善法を善法に善法を善法に善法を善法に



ありうしきには法もりや  
 雲山を梅ひかもづく一佛宗  
 衆小はまぬの恵り由もるなわ  
 とり三寶成意しるをき楽と  
 をと法はく実たしひたを山  
 う般くはしきハ吉殿乃燈  
 かにき風の空殿終幕となして

詞

月

石上よちのなしくあめらりなほ  
 若海をあゆむる人乃ああり  
 あり海すはまへんもりやぶ  
 月よは菴家乃うらへ葉内中人  
 我せんうん乃宮よむりひぶふ  
 可まひまへる案内中さるとは  
 める成去る是はあしわふ

位者仕るお僧少てゐる口は院よ  
牙海うゝ入業は成はありれこよ  
よわ初たいいりわ尸事しぬこも  
ろ、然うんは事申すさるんたあよ  
見まて集りてゐる コキ 是だと思ひも  
よゝゝぬる成取んものゝあおを  
たすきすとは思ひもさゝるん

三

都東小院のあうわよておはる

なわきためえ思ふあしは

のさわ乃はるろこかよるい

中あまて コキ 是は熱也子何事

あへもあまは金うのさるは

あ明より取入中る コキ ころ

ああまよびまゝなわ又乃ろ見哉

らあへおしん事は世に命に  
更よあたる様を志しうてお  
法説法乃ち様まのあしこりり  
拜と申成しうらん ミテうおあり  
やすき法乃ちう三が神様を様よ  
おぼめさハ各拜まを申し  
さうわなまの法と一と思はれ

なういあたるの我めあしう  
アセニ海しうまびて新ひたまふなま  
上よりうすくもをくたくく  
そあしあはるるんくから様  
一村よたちよわて目をあしき  
待竹ひ佛乃ち法乃ちあえふ  
そ時兩眼をひききく



この其の心より来たる又七重寶樹とし  
なしたてられたる糠巻ぬまゆりの座に  
臥したる仙人の善以文殊有者おし居  
居りて其の善法はのたまふなり  
心より来たる仙人の心は我神ハ部  
をのぞく様にしりてたうきわ  
遊業阿難其大あり尋のきり

阿難乃大舞少ハ一面の坐するに  
其の心より来たる仙人の心は我神ハ部  
をのぞく様にしりてたうきわ  
遊業阿難其大あり尋のきり

羊下

くまありうへききききうん

信心をくまへてててててて

信心をくまへてててててて

~~~~~





ともしらるるをぬよなはて飛りも  
うましむいなるうけしを拜し  
しきき帝釋名を記しきし  
あし勢新ふろけとま夫物ハ  
黒松を流すし下はさう見え  
名松をばしひくくもあし  
深谷乃名洞よりのくわ



110X  
587  
2  
2